

下広川保育園ふれあい宿泊体験活動事業 （南筑後地区幼児体験活動実行委員会）

1 プログラムの概要

(1) ねらい

- 下広川小学校5年生児童との交流を通じて、幼少連携を促進する。
- 親元を離れての1泊2日の集団宿泊生活を通して、「自分のことは自分でする」「友だちと助け合って行動する」など生活に必要な基本的な習慣や態度を身につけることができる。
- 県立「ふれあいの家南筑後」周辺の豊かな自然環境にふれあい、自然に親しむ態度を育てる。

(2) 期間・場所

平成19年8月22日（水）～8月23日（木）（1泊2日）
 県立「ふれあいの家南筑後」

(3) 参加者数

園児：25名 下広川小学校5年生児童：18名
 引率者：3名 指導者：14名

(4) 日 程

時間	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
22日 (水)						集 合	開の小 所ゲ学 式 生 ムと	昼 食	の星 水野 遊川 びで		お昔見 や遊送 つぶり	入 浴	夕 食	花お 火話 会			就 寝
23日 (木)	起 床	散 策	朝 食	り竹 パ ン 作	ィペス ンイト ン グン テン		昼 食	退帰 所園									

(5) 主な活動状況

ア 小学生とのゲーム(1日目10:00～12:30)

- 準備するもの 紙芝居、マイク
- 子どもの様子 小学生から紙芝居をしてもらったり、ジャンケン汽車ぽっぽゲームを行ったりして、打ちとけた。
- 留意点
 - ・主体性を持たせるため、司会進行を小学生に行わせた。
 - ・尻込みする子どもへ声かけを行った。



イ 星野川での水遊び(1日目13:00～15:00)

- 準備するもの 水着、帽子、サンダル、水筒、救急箱
- 子どもの様子 星野川の堰で、うつぶせになったり、水をかけ合ったり、楽しく水遊びを行った。初めて川遊びをする子どももいて、流れる水に驚いたり、滑りやすい川底に不安がったり新鮮な感動を持ったようだった。
- 留意点
 - ・堰や川底等の安全点検を行った。
 - ・遊ぶ範囲や遊び方等を子どもたちに説明した。



ウ 昔遊び(1日目15:30～16:30)

- 準備するもの おはじき、お手玉、ゴムボール、毛糸、ビー玉、広告紙、紙風船等
- 子どもの様子 地域のボランティアの指導のもと、下広川小学校の5年生児童と一緒に、あやとりやゴム跳び、お手玉、おはじき等の昔遊びを楽しんだ。子どもたちは、初めての経験に戸惑いながらも、昔遊びにとっても興味を持ったようだった。



- 留意点 ・事前に、遊び方等について、わかりやすく子どもたちに説明した。
- ・遊び用具を十分用意した。

エ 竹パン作り(2日目8:00~11:30)

- 準備するもの パンの生地、ソーセージ、竹の棒、厚手のビニル袋、バーベキューセット
- 子どもの様子 バーベキューコンロの上で、「熱い熱い」と言いながら、自分たちで巻いたパンの生地を楽しく焼いた。そして、出来上がった竹パンを「おいしい、おいしい」と言って、笑顔でかぶりついた。
- 留意点 火傷しないように、子どもの様子を注意深く見守った。



オ ストーンペインティング(2日目10:00~11:00)

- 準備するもの 石ころ、絵の具、筆、新聞紙
- 子どもの様子 子どもたちは、絵の具と筆で思い思いに色とりどりの絵を描いていった。そして、世界に2つとない、素晴らしい作品を作り上げた。
- 留意点 ・濃い目に色を付けるように指導した。
- ・参考作品を準備した。



2 子ども・保護者等の感想

(1) 子ども(園児と小学生)

- 小学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に遊んだりおやつを食べたりしたことが楽しかった。(園児)
- 竹の棒にぐるぐる巻いた竹パンの焦げた部分がとてもおいしかった。(園児)
- 来年の1年生と仲良くなれ、ゲームなどを考えるのも楽しかった。(小学生)
- 幼児と交流したおかげで、幼児の気持ちが理解できるようになった。(小学生)

(2) 保護者

- 来年6年生になるお兄さんたちとふれ合うことができよかったです。(園児)
- 親元を離れて友だちとの集団生活、貴重な体験ができ、子どもが喜んでいたのでありがたかったです。
- 家族とは違う世界での2日間の生活により、子どもの視野が広がったように思います。いろんな経験を通して、自信も出たようです。
- 夏休み中で、少々だらけモードの中、規律正しく過ごす2日間は、とてもいい刺激になったように思います。

(3) 指導者等

- 3年続けて幼児体験活動を実施してきたが、前回までの反省を生かして活動したので、充実した体験活動を行うことができた。
- 川での水遊び等、日頃、保育園ではできない活動を行うことができてよかった。

3 成果と課題

(1) 成果

- 幼児たちの大半が入学する下広川小学校の5年生児童と、ゲームや昔遊び等で楽しくふれあい、幼小連携を進めることができた。
- 洗面や食事の配膳、荷物の整理等、自分でできることは自分でしようとする気持ちを育てることができた。
- 地域のボランティアを活用し、おはじきやお手玉等、昔遊びの楽しさを子どもたちに伝えることができた。

(2) 課題

- 幼小連携をさらに深めるためには、連携に関する事業等を継続的に行う必要がある。
- 雨天時の対応等、きめ細かな準備を行う必要がある。